

組むことで、図らずもソーシャル・ファイナンスの役割を果たしていた。

## 「次の社会を作る」NPOバンク

15年前にNPOバンクの第1号、「未来バンク事業組合」（田中優理事長）が誕生して以来、日本に9つのNPOバンクが生まれた。今では「ほぼ全都道府県で、NPOバンク設立の動きがある」（田中優さん）といい、今後その数は急増しそうだ。

その一つ「コミュニティ・ユース・バンク momo」（名古屋市中区）は、木村真樹さん（31）が中心となり、20〜30歳代の若者が05年に立ち上げた。09年1月時点で約250人から約3千万円の出資金を集め、10件2200万円の融資を実行した。

木村さんは地方銀行に勤務していた時に「貸し渋りや貸しはがしで融資先が倒産していくのを目の当たりにし、銀行への違和感を感じた」という。

その後、NGOのA SEED JAPANやap bankで働き、国内外でのソーシャル・ファイナンス活動を知った。「金融が地域を良くするために使える」。この感動が出身地の名古屋にNPOバンクを作る原動力になった。

momoの融資実績を見ると、地域との結びつきを大事にするという理念が浮かび上がる。例えば、ぎふNPOセンター

が岐阜県郡上市で行う水力発電事業。町中を流れる美しい水路に流れ込む水資源を使って発電することで、電力を地域で自給するとともに、水の大切さを市民で分かち合い、街おこしにつなげる試みだ。ここにmomoは融資した。

融資は20歳代が半数を占める理事たちの合議で決められ、事業のサポートまで踏み込む。融資を行う基準は、momoにかかわる人々が「こうなつてほしい」という思いだ。思いの中身はさまざまだが「私たちとその子供たちがずっと暮らしていける『持続可能な地域を作る』という点では共通している」と木村さんは説明する。

この団体の名前は、ミヒヤエル・エンデの児童文学『モモ』にちなむ。この作品では「時間泥棒」に奪われた時間を取り戻すが、失われかねない豊かな未来を、市民が取り戻すことを目指している。

この特集で取り上げたソーシャル・バンカーたちは、融資を実行してからも足しげく融資先に通い、相談に乗り続ける。ap bankやmomoはウェブサイトで融資先の事業の紹介までする。貸し手と借り手は信頼関係で結ばれ、その結果、貸し倒れは極端に少なくなる。ap bankの貸し倒れもまだ数件でしかない。

大手金融機関や中堅銀行の多くは、まだこうした「ソーシャル・ファイナンス」

を自行の問題としてとらえていない。融資の期間や収益性を考えれば、二の足を踏むのは仕方がない。だが、「ソーシャル・ファイナンス」のような二人三脚型の融資は、サービス業としての模範であり、「金融業の原点」と言えるのではない。

ソーシャル・ファイナンスの担い手からは「NPOの事務局長になれるぐらい、融資先を学ぶことがある」（労金・山口さん）、「地域が豊かになれば、長くビジネスを続けられる」（西武信金・高橋さん）など力強い声が聞こえてくる。

## 零細では社会を変えられない

三菱東京UFJ銀行CSR推進室・上席調査役の中田治彦さんは以前、あるシンクタンク経由で、あるNPOバンクとの連携を模索した。しかし反応は消極的だったという。NPOバンクは既存の金融機関と違うことをするために立ち上がった団体が多いため、大手銀行との提携に戸惑ったのかも知れない。

既存の金融機関に「ソーシャル」な姿勢が欠けていたのは否定できないが、かといって、「志」だけではビジネスは成り立たないし、零細なままでは社会を変えられない。

ソーシャル・バンカーたちにとって決定的な問題は、規模が小さ過ぎてビジネスとして成り立たないことだ。一つの

ソーシャル・バンカーが1億円を貸しても金利が1%なら年間の収益は100万円。一人分の人件費も出ない。

日本のNPOバンクで最も融資残高が多い未来バンクですら、09年初の融資残高は8千万円だ。

日銀の統計によると、金融機関による国内の融資残高は400兆円に達する。一方で、9つのNPOバンクを合わせても融資残高は10億円以下と推定され、労金や信金による融資残高を合わせても100億円には届かないだろう。

「社会的な起業、NPOの立ち上げはリスクが大きく、負担の方法を社会全体で考えなければならない」。大学講師を務めながら、社会活動に資金提供をするNPO「ソーシャル・デザイン・ファンド」（兵庫県宝塚市）を運営する代表理事の金森康さんは問題点を指摘する。

貸金業法の問題もある。金融庁はNPOバンクに対して、財産要件（最低限必要な資産）を500万から一挙に5千万円に拡大しようとしている。「これが実現すれば、日本のNPOバンクは存在が危うくなる」（未来バンク・田中さん）。

今後、経済や社会における非営利部門の拡大に伴って、ソーシャル・ファイナンスの重要性はますます高まる。これに備えて、ソーシャル・ファイナンスの担い手たちが実績を積み上げ、ビジネスと